長野県
民俗の会通信
第312号

○酒井佐先生の逝去を悼む ……福澤　昭司
○酒井佐先生を偲ぶ ……多田井幸視
○地方博物館の民俗資料整理の現場から ……宮本　尚子
○東筑摩郡筑北村の富蔵（とくら）山馬頭観音信仰の道 ……小原　稔

酒井佐先生の逝去を悼む

福澤昭司

酒井先生の訃報が届き後悔の念にとらわれています。というのは、長野県民俗の会の草創の頃のお話しを酒井先生に伺いたいという要望が会員からあり、先生にお願いしてみたところ、このところ耳が遠くなってしまっていけない、というお返事をいただいたきりになってしまっていたのです。もう少し粘って、筆記でもとか方法を提案すべきだったと悔やまれます。酒井先生は長野県民俗の会の設立発起人には名前を連ねないものの、早くから会活動に参加された先達の一人です。『通信』で酒井先生のお名前の初出は、第六号（一九七五年三月）掲載の、仁科政視先生著作論文集の出版記念会参加者の中にありました。そして、一九七七年三月の『通信』十八号に「千曲川に見られた漁」という詳細な報告を掲載しています。この原稿は恐らく二月の例会の会員発表をまとめたものではないかと思われます。ツケ場漁とヤナ漁についての詳しい調査報告です。興味深いことに、同じ号の『通信』掲載の「昭和五一年　民俗関係雑誌論文目録」にある雑誌『上田盆地』掲載の塩田平中野の調査報告で、酒井先生は社会生活の分野を担当されています。

県史刊行会転出の日に民俗班のメンバーと
(1988.3.25)

長野県史刊行会に民俗編編纂委員会が設けられ、常任編纂委員として勤務されていた倉石忠彦先生が一九八三年三月に國學院大學に転出されると、その後任として酒井先生が勤められることになりました。そして、『長野県史民俗編』の北信・東信の資料編各三冊、南信の資料編一冊を編集され、一九八八年三月学校現場に戻られました。私は一九八五年四月に常任編纂委員となり、酒井先生にご指導いただきながら先生の転任までの三年間、同じ職場で過ごしました。最初は西も東もわからない仕事でしたので、酒井先生の温厚さに随分と助けていただきました。

酒井先生の県史での担当分野は社会生活でした。なぜその分野を選ばれたのか、元から興味を持たれていたのかなどは今となってはわかりませんが、上田民俗研究会での調査分担をそのまま引き継いだのかとも思われます。

酒井先生が『通信』に書かれた原稿のテーマをあげてみると、「千曲川に見られた漁」（一八号）、「丸子町西内地区の道祖神祭り」（三六号）、「野沢温泉村聞き書き抄」（四八号）、「水の伝説二つ」（五一号）、「付木」（一四一号）、「佐口調査報告」（一四八号）があります。このうち「付木」の報告は、今では聞くことができない貴重なものです。子どもの頃、重箱にお祝いの赤飯を持って近所を訪ねると、お返しだといってマッチの小箱を重箱に入れて返されたのを思い出します。

長野県民俗の会通信三一二号
二〇二六年三月一日
会費年額　五、〇〇〇円
長野県民俗の会

振　替　〇〇五二〇―三―一三六五七
長野県民俗の会
E-mail：info@nagano-minzoku.chu.jp
URL：http://nagano-minzoku.chu.jp/